

「高ぶりとへりくだり」ヤコブ4：6，10 堀田修一 21・5・23

I 先行する神の恵み。

「神は、さらに豊かな恵みを与えてくださる」：6。神は、私たちの内にある悪い欲望や罪の世を愛する誘惑に打ち勝つ、さらに豊かな恵み、御聖霊の愛と力を与えて下さいます。「私たちが滅びうせなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは、朝ごとに新しい」(哀3：22，23)。朝、神の前に静まり主の恵み、憐みをいただきましょう。恵もうと私たちとの交わりを待っておられる。朝、時間を取り分けることが出来ない方は、可能な時を見つけて神と交わりましょう。

II 「神は、高ぶる者には敵対し」：6。

1. 高ぶるとは

- ① 自分が神に造られ、命をいただいた被造物であることを忘れ、創造主である神に感謝もせず背いてしまう。
- ② 自分の罪と弱さを認めず、主を信じ、拠り頼むことをしない。
- ③ 自分に能力があり、何かができる、その能力とある事ができたのは、神が与えられた能力と支え、神が備えられた人々の祈りと協力のおかげである事を忘れ、心の中で「自分がやった」と思い上がり（自分を神の座に上げる）、神に感謝もせず神に栄光を帰さない。私たちの根本的な罪は、この高ぶりです。この誘惑に強い人はいません。祈りましょう。ひどい苦しみの中では、悪魔は、神への不平を持たせ神を疑わせようと、祝福や成功の時には、悪魔は「神はいらない」と思わせ、高ぶらせようとします。この二つの罪から守られるように祈りましょう。「私たちを、…悪からお救いください」（主の祈り、マタイ6：13）。
- ④ この世の罪の快樂や地位、名誉を求め世の友となり（：4）、弱い人々をさげすむ。正義を無視し、悪に付度し、地位、権力を得て、悪用し、不正な富を得て、富んでいる人を優遇し、貧しい人々を顧みない。※そのような人の人生の最後は幸いではなく、死後には、神の正しいさばきがある。
- ⑤ 神の御言葉や人の助言に耳を傾けず、いつも自分の意見だけを強く押し通す。神にも人にも自分の誤りをお詫びしない。それゆえ、私たちが高ぶる時、正しい道から外れ、破滅する。「高ぶりは破滅に先立ち」（箴16：18）。
- ⑥ 自分こそ正しいとこだわり、他の人の意見に耳を貸さず、人を見下し、さばく。あら捜しをし非難する。
- ⑦ 自分は知恵があると思いが上がる。自分が愚かである事も、まだ多くの事を学び教えられなければならない事に気づかない（Iコリント8：1，2）。それ故に成長が止まる。
- ⑧ 靈的に墮落し、主に祈ったり、主に尋ね求めたりしなくなる（ホセア7：10）。

2. 高ぶりの結果→「神は、高ぶる者には敵対し（原語：抵抗、対抗、敵対されるの意）」：6。神は、へりくだって神に拠り頼む者の力強い味方です（ローマ8：31）。この偉大な方が私たちの味方なら何も恐れる必要はありません。しかし、私たち人間が高ぶる時、その最大の罪故に、神は正しく怒り、私たちに対抗され、ご自身の近くにある恵みの場から高ぶる者を退けられます。その理由は、私たちが高ぶっても、変わらずに恵みが与えられるなら、ますます高ぶり、破滅に至るからです。神のさばきは、私たちの罪への歯止めという恵みです。また、神の敵対という厳粛なさばきは、高ぶりという罪が、それほど恐ろしい罪である事を私たちに示して下さい。神が対抗され、恵みの場から退けられる時、

私たちの霊的な力、聖さ、輝きはなくなります。みじめな姿となります。しかし神は、再び悔い改める者を退けたりなさいません。私たちも示される高ぶりがあれば、神に告白し立ち返りましょう。神は喜んで赦し迎えて下さいます。「私は、もはや、彼らの罪と不法を思い起こさない」ヘブル10：17

Ⅲ へりくだり。：6、10。

1. へりくだるとは

- ① 自分が神の恵みで造られ、命が与えられ、今日まで生かされている恵みを忘れず、造り主なる神を信頼し神に感謝し従うことです。：10に「主の御前で」とあります。人の前ではなく、まず神との関係が第一です。人の評価に生きるのではなく、神の前に生きるのです。へりくだりとは、見せかけの自己卑下や人にぺこぺこしてへつらう事ではありません。真にへりくだった人は、人の評価に左右されず、神の御前の自分を保って真実に生きています。神の前にへりくだった人は、人にもへりくだり、横柄ではありません。へつらわず、且つ謙遜。
- ② 自分の罪と弱さを認め主に頼る。Ⅱコリント1：8，9。自分を誇らない。「私には、私たちの主イエス・キリストの十字架以外に誇りとするものが、決してあってはなりません」ガラテヤ6：14
- ③ 自分に与えられている能力や自分が何かできた事は、すべて神から出ており、神のおかげである事を心から認め、心から感謝し、神に栄光を帰す。詩115：1。頼る時だけ一生懸命でなく、答えられ、守られた時も、熱心に感謝と栄光を神に帰しましょう。それは、高ぶりへの良き防御です。
- ④ 主の御言葉と他の人の意見に耳を傾ける。ヤコブ1：19。自分の考えだけがいつも正しいとは思わない。ピリピ2：3。神と信頼できる人に耳を傾け、成長し続ける。
- ⑤ 人を見下げたり、さばいたりしない。自分自身にも欠点があると自覚している。人々を神の視点で見る。人々を神によって造られ愛されている人として見、神がその人に与えられた良い所を見出し尊敬する。ローマ12：10。
- ⑥ 自分には、いつも神の知恵が必要だと知り、いつも祈り学び、教えられ易い心を持つ。ヤコブ1：5

2. へりくだりの結果

- ① 神がその人に「恵みを与える」：6。天からの雨水が低い所低い所へ流れて行くように神からの恵みも、心の低いへりくだった人に流れて行きます。稲の穂が多くの実を結べば結ぶほど下に垂れるように、真にへりくだった人は、主により実を結べば結ぶほど、ますます神を恐れ敬いへりくだります。人にも思いやり深くなります。そうすると神もまた恵みを授けられます。恵みが与えられると高ぶる人には、危険なために、神はそれ以上に恵みを与えられません。へりくだる人には、神は安心して恵みを注がれる。
- ② 「主の御前でへりくだりなさい。そうすれば、主があなたがたを高く上げて下さいます」：10。これは、へりくだる人は、地上の地位が高くされるという意味ではありません。主に忠実な人は、この世では迫害を受けます。「イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます」Ⅱテモテ3：12。10節の「高く上げてくださる」とは、神が恵みを与えられ、神の為の実を結ぶようにして下さるということです。私たちにどんな弱さがあっても、へりくだって神に頼る時、霊的な力、霊的な勝利が与えられ、神は私たちが神の為に豊かに用いて下さるのです。「わたし（主）の力は、弱さ（私たちが弱さを認めるへりくだり）のうちに完全に現れるからである」Ⅱコリ12：9。

高ぶる強さより、弱さがあるほうが、主に素直に頼り、主の恵みと力を体験できるのです！

祈り：私たちが、高ぶりから守られ、へりくだり、神の恵みが与えられる者とされますように！